ディレクトリ ソースとの統合

- オンプレミス展開用のディレクトリ ソースとの統合，1 ページ
- 連絡先ソースの設定，1 ページ
- フェデレーション，12 ページ
- ディレクトリ統合のためのクライアント設定，15 ページ

オンプレミス展開用のディレクトリ ソースとの統合

はじめる前に

オンプレミス展開用のディレクトリ統合の設定.

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	連絡先ソースの設定，（1 ページ）	
ステップ 2	ディレクトリ統合のためのクライアント設定，（15 ページ）	

連絡先ソースの設定

クライアントは、ユーザを検索したり、連絡先解決をサポートしたりするために連絡先ソースを必要とします。

拡張ディレクトリ統合（EDI）、基本ディレクトリ統合（BDI）、およびCisco Unified communications Manager User Data Service（UDS）を連絡先ソースとして設定できます。

手順

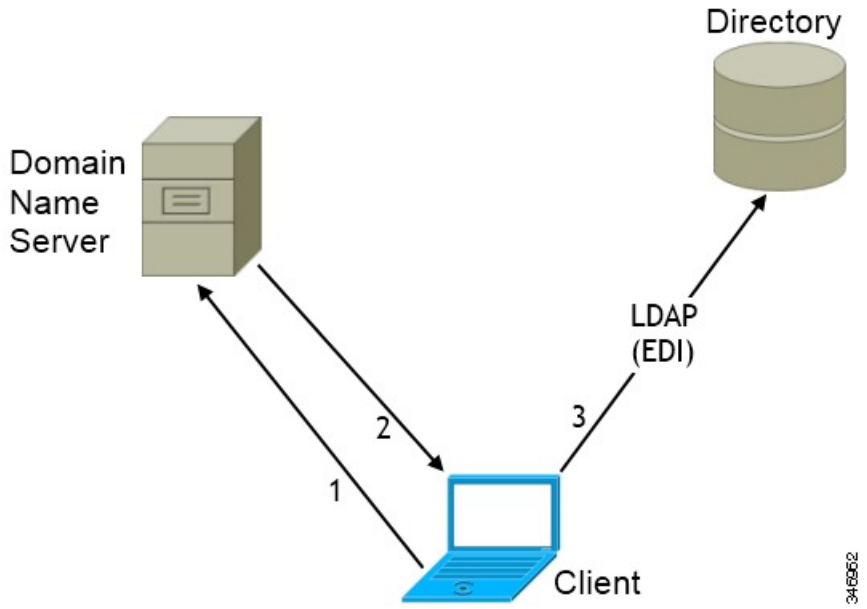
	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	EDI を連絡先ソースとして設定するには、ドメイン名の検索, （3 ページ）とディレクトリ サーバの検出, （4 ページ）を参照してください。	EDI は、LDAP ベースの連絡先ソースで、Cisco Jabber for Windows で使用されるデフォルト連絡先ソースです。
ステップ 2	BDI を連絡先ソースとして設定するには、連絡先ソースを使用した認証, （5 ページ）を参照してください。	BDI は、LDAP ベースの連絡先ソースで、Mac、iOS、および Android 用の Cisco Jabber クライアントで使用されるデフォルト連絡先ソースです。
ステップ 3	UDS を連絡先ソースとして設定するには、UDS との統合の有効化, （10 ページ）とUDS サービス パラメータの設定, （11 ページ） を参照してください。	Cisco Unified Communications Manager UDS は、Cisco Unified Communications Manager の連絡先ソースで、すべての Cisco Jabber クライアントの連絡先ソースとして使用できます。 UDS は、Expressway Mobile and Remote Access に使用される連絡先ソースです。

拡張ディレクトリ統合

EDI は、ネイティブな Microsoft Windows API を使用してディレクトリ サービスから連絡先データを取得します。

EDI を使用したオンプレミス展開用のデフォルト設定は次のとおりです。

- Cisco Jabber は連絡先ソースとして Active Directory と統合します。
- Cisco Jabber は自動的にグローバル カタログを検出して接続します。



上記の図では、クライアントは次をデフォルトで実行します。

1. ワークステーションから DNS ドメインを取得して、グローバル カタログの SRV レコードを検索します。
2. SRV レコードからグローバル カタログのアドレスを取得します。
3. ログインしているユーザのクレデンシャルでグローバル カタログに接続します。

ドメイン名の検索

Cisco jabber for Windows は、クライアント ワークステーション上の USERDNSDOMAIN 環境変数から完全修飾 DNS ドメインを取得します。

クライアントが DNS ドメインを取得したら、ドメイン ネーム サーバを見つけて SRV レコードを取得できます。

場合によっては、USERDNSDOMAIN 環境変数の値は、フォレスト全体のドメインに対応する DNS ドメインに解決されません。 たとえば、組織がサブドメインまたはリソース ドメインを使用しているとします。 この場合、USERDNSDOMAIN 環境変数は、親ドメインではなく子ドメインに解決されます。 このため、クライアントは組織のすべてのユーザの情報にアクセスできません。

USERDNSDOMAIN 環境変数が子ドメインに解決される場合は、次のいずれかのオプションを使用して、Cisco jabber for Windows が親ドメイン内のサービスに接続できるようにします。

- グローバル カタログまたは LDAP ディレクトリ サーバが組織内のすべてのユーザにアクセスできることを確認します。
- Cisco jabber for Windows がグローバル カタログまたは LDAP ディレクトリ サーバを要求したときに、組織内のすべてのユーザにアクセス可能なサーバにクライアントをルーティングするように DNS サーバを設定します。

- 親ドメインの FQDN を使用するように Cisco jabber for Windows を設定します。

  次のように、クライアント設定で PrimaryServerName パラメータの値として親ドメインの FQDN を指定します。
  ```
  <PrimaryServerName>parent-domain-fqdn</PrimaryServerName>
  ```

関連トピック

ディレクトリ接続パラメータ
Configuring DNS for the Forest Root Domain
Assigning the Forest Root Domain Name
Deploying a GlobalNames Zone
Support for DNS Namespace planning in Microsoft server products

ディレクトリ サーバの検出

Cisco Jabber は、次の場合にディレクトリ サーバを自動的に検出して接続できます。

- Cisco Jabber がインストールされたワークステーションが Microsoft Windows ドメイン内に存在する場合。
- クライアントが DNS SRV レコードからディレクトリ サーバのアドレスを取得できる場合。

ディレクトリ サーバ	SRV レコード
グローバル カタログ	`_gc._msdcs._tcp.domain.com`
ドメイン コントローラ LDAP ベースのディレクトリ サーバ	`_ldap._msdcs._tcp.domain.com`

基本ディレクトリ統合

基本ディレクトリ統合（BDI）を使用している場合は、次のように、クライアントがディレクトリ サービスから連絡先データを取得します。

1. クライアントが Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス ノードに接続します。
2. クライアントが Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス ノードからサービス プロファイル内の LDAP プロファイル設定セクションを取得します。

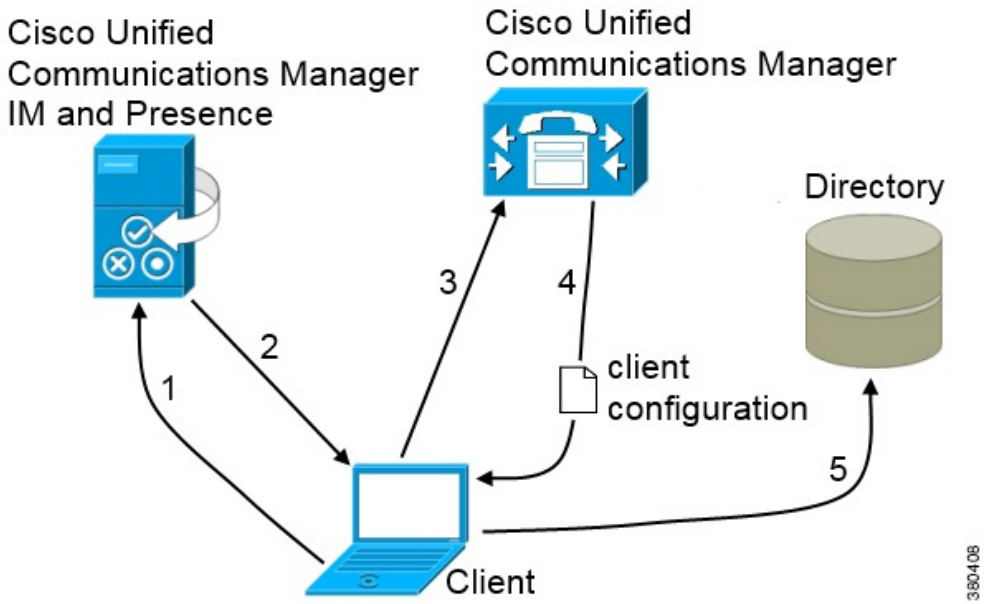
   サービス プロファイルに、Cisco Unified Communications Manager（TFTP）ノードの場所が含まれています。 設定によっては、サービス プロファイルにディレクトリで認証を受けるためのクレデンシャルが含まれる場合もあります。

3 クライアントが Cisco Unified Communications Manager ノードに接続します。

4 クライアントが Cisco Unified Communications Manager ノードからクライアント コンフィギュレーション ファイルをダウンロードします。

クライアントの設定ファイルには、ディレクトリの場所が含まれます。設定によっては、クライアントの設定ファイルにディレクトリで認証を受けるためのクレデンシャルが含まれる場合もあります。

5 クライアントはディレクトリの場所と認証クレデンシャルを使用し、ディレクトリに接続します。



連絡先ソースを使用した認証

BDI では、ユーザが連絡先を解決するためにディレクトリ ソースで認証を受ける必要があります。 優先度順に連絡先ソースと認証するには、次の方法を使用できます。

- Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager でクレデンシャルを指定する：サーバ上のプロファイルでクレデンシャルを指定します。 その後、クライアントはディレクトリの認証を受けるためにサーバからクレデンシャルを取得できます。 この方法は、クレデンシャルを保存および送信する最も安全なオプションです。
- クライアント コンフィギュレーション ファイルで共通のクレデンシャルを設定する：クライアント コンフィギュレーション ファイルで共有されているユーザ名とパスワードを指定します。 その後、クライアントはディレクトリ サーバで認証を受けます。

重要 クライアントは、これらのクレデンシャルをプレーン テキストとして転送して保存します。

読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットを使用します。

- 匿名バインドを使用する：匿名バインドを使用してディレクトリ ソースに接続するようにクライアントを設定します。

Cisco Unified Presence での LDAP ディレクトリ設定の指定

ご使用の環境に Cisco Unified Presence リリース 8.x が含まれている場合は、LDAP プロファイルでディレクトリ設定を指定できます。その後、クライアントはディレクトリ ソースの認証を受けるためにサーバからディレクトリ設定を取得できます。

次の手順を完了して認証クレデンシャルを含む LDAP プロファイルを作成し、そのプロファイルをユーザに割り当てます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP プロファイル（LDAP Profile）] を選択します。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。

ステップ 4 プロファイルの名前とオプションの説明を指定します。

ステップ 5 LDAP サーバに対してクエリーを実行する権限を持つユーザ ID の識別名を指定します。 Cisco Unified Presence は、LDAP サーバとの認証されたバインディングにこの名前を使用します。

ステップ 6 クライアントが LDAP サーバで認証を受けるために使用可能なパスワードを指定します。

ステップ 7 [プロファイルにユーザを追加（Add Users to Profile）] を選択し、対象ユーザをプロファイルに追加します。

ステップ 8 [保存（Save）] を選択します。

次の作業

クライアント設定ファイルで追加 BDI 情報を指定します。

Cisco Unified Communications Manager での LDAP ディレクトリ設定の指定

環境に Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降が含まれている場合は、ディレクトリ サービスの追加時にクレデンシャルを指定できます。その後、クライアントはディレクトリ ソースの認証を受けるためにサーバから設定を取得できます。

ディレクトリ サービスを追加する手順を完了し、サービス プロファイルにディレクトリ サービスを適用し、ディレクトリ サービスの LDAP 認証設定を指定します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索と一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービスの追加（Add a UC Service）] セクションで、[UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リストから [ディレクトリ（Directory）] を選択します。

ステップ 5 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 6 ディレクトリ サービスの詳細を入力します。

- [製品タイプ（Product Type）] : [ディレクトリ（Directory）] を選択します。
- [名前（Name）] : ディレクトリ サービスの一意の名前を入力します。
- [ホスト名/IPアドレス（Hostname/IP Address）] : ディレクトリ サーバのホスト名、IP アドレス、または FQDN を入力します。
- [プロトコルタイプ（Protocol Type）] : ドロップダウン リストから、以下を選択します。
  - Cisco Jabber for Windows の場合は [TCP] または [UDP]
  - Cisco Jabber for iPhone または iPad の場合は [TLS]
  - Cisco Jabber for Android の場合は [TCP]

ステップ 7 [保存（Save）] を選択します。

ステップ 8 サービス プロファイルにディレクトリ サービスを次のように追加します。

a) [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [サービス プロファイル（Service Profile）] の順に選択します。
[サービス プロファイルの検索と一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

b) 目的のサービス プロファイルを検索し、それを選択します。
[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

c) [ディレクトリプロファイル（Directory Profile）] セクションで、[プライマリ（Primary）]、[セカンダリ（Secondary）]、および[ターシャリ（Tertiary）] の各ドロップダウン リストから、最大 3 つのサービスを選択します。
d) 次のフィールドで、クライアントが LDAP サーバで認証を受ける場合に使用する [ユーザ名（Username）] と [パスワード（Password）] を指定します。
e) [保存（Save）] を選択します。

クライアントの設定でのクレデンシャルの設定

次のパラメータを使用してクライアントの設定でクレデンシャルを設定できます。

- BDIConnectionUsername
- BDIConnectionPassword

重要 クライアントは、これらのクレデンシャルをプレーン テキストとして転送して保存します。

読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットを使用します。

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <BDIConnectionUsername>admin@example.com</BDIConnectionUsername>
  <BDIConnectionPassword>password</BDIConnectionPassword>
</Directory>
```

匿名バインドの使用

匿名バインドを使用するには、クライアントの設定ファイルで次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	BDI
BDIPrimaryServerName	IP アドレス FQDN
BDIEnableTLS	True
BDISearchBase1	ディレクトリ ツリーで検索可能な組織単位（OU）
BDIBaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）

パラメータ	値
BDIPredictiveSearchFilter	UID または他の検索フィルタ 検索フィルタはオプションです。

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>BDI</DirectoryServerType>
  <BDIPrimaryServerName>11.22.33.456</BDIPrimaryServerName>
  <BDIEnableTLS>True</BDIEnableTLS>
  <BDISearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</BDISearchBase1>
  <BDIBaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BDIBaseFilter>
  <BDIPredictiveSearchFilter>uid</BDIPredictiveSearchFilter>
</Directory>
```

Cisco Unified Communications Manager User Data Service

User Data Service（UDS）は、連絡先解決を提供する Cisco Unified Communications Manager の REST インターフェイスです。

UDS は次のような状況で連絡先解決に使用されます。

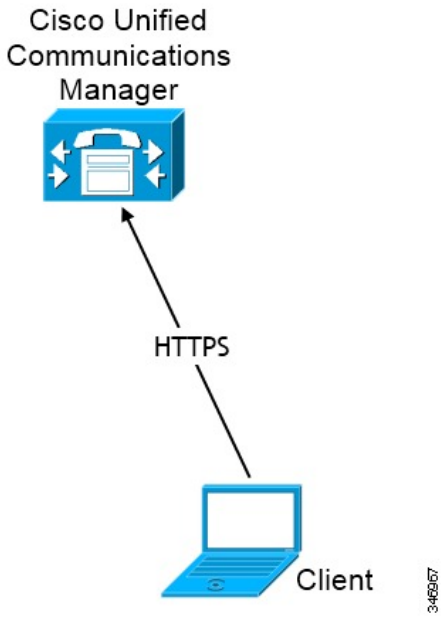
- クライアント コンフィギュレーション ファイルの UDS の値を使用するように DirectoryServerType パラメータを設定した場合。

  この設定では、企業のファイアウォールの内側または外側のクライアントが連絡先解決に UDS を使用します。

- Expressway for Remote and Mobile Access を展開した場合。

  この設定では、企業のファイアウォールの外側のクライアントが自動的に連絡先解決に UDS を使用します。

ディレクトリ サーバから Cisco Unified Communications Manager に連絡先データを同期します。 そうすると、Cisco Jabber が自動的に UDS からその連絡先データを取得します。



UDS との統合の有効化

UDS との統合を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager でディレクトリ ソースを作成します。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager に連絡先データを同期させます。
同期後は、連絡先データが Cisco Unified Communications Manager に存在します。

ステップ 3 コンフィギュレーション ファイルの DirectoryServerType パラメータの値として UDS を指定します。
次に、UDS がディレクトリ サーバ タイプである設定例を示します。

```
<Directory>
 <DirectoryServerType>UDS</DirectoryServerType>
</Directory>
```

重要 この手順は、すべての連絡先解決（つまり、ファイアウォールの内側と外側の両方）に UDS を使用する場合にのみ必要です。 Expressway for Mobile and Remote Access を設定した場合は、クライアントが DirectoryServerType パラメータの値に関係なく、ファイアウォールの外側では自動的に UDS を使用します。 Expressway for Mobile and Remote Access を使用している場合は、DirectoryServerType パラメータの値をファイアウォールの内側で使用する UDS または LDAP ベースの連絡先ソースに設定できます。

ステップ 4 手動接続では、Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスを指定して、クライアントが確実にサーバを検出できるようにします。
次に、Cisco Unified Communications Manager サーバの設定例を示します。

```
<UdsServer>11.22.33.444</UdsServer>
```

ステップ 5 クライアントを設定して、UDS で連絡先写真を取得します。
次に、連絡先写真の取得の設定例を示します。

```
<UdsPhotoUriWithToken>http://server_name.domain/%%uid%%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>
```

UDS サービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager で UDS のサービス パラメータを設定できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム（System）] > [エンタープライズパラメータ（Enterprise Parameters）] を選択します。
[エンタープライズパラメータ設定（Enterprise Parameters Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [ユーザ データ サービス パラメータ（User Data Service Parameters）] セクションを探します。

UDS サービス パラメータ

UDS を設定するための次のサービス パラメータの値を設定します。

パラメータ	説明
Enable All User Search	ディレクトリ内の全ユーザの検索を許可します（姓、名、またはディレクトリ番号を指定しない検索） デフォルト値は true です。
User Search Limit	クエリーで返すユーザの数を制限します。 デフォルト値は 64 です。
Number of Digits to Match	ユーザが電話番号を検索するときに照合する桁数を指定します。 **ヒント** PSTN 番号を解決するには、PSTN 番号の桁数に等しい値を設定します。たとえば、PSTN 番号が 10 桁の場合は、値を 10 に設定します。

複数のクラスタでの連絡先の解決

複数の Cisco Unified Communications Manager クラスタを使用した連絡先解決では、社内ディレクトリ上のすべてのユーザを各クラスタに同期させます。 該当するクラスタでそのようなユーザのサブセットをプロビジョニングします。

たとえば、組織のユーザが 40,000 人とします。 20,000 人のユーザが北米にいます。 20,000 人のユーザがヨーロッパにいます。 組織は、拠点ごとに次の Cisco Unified Communications Manager クラスタを配置しています。

- `cucm-cluster-na`（北米）
- `cucm-cluster-eu`（ヨーロッパ）

この例では、40,000 人のユーザすべてを両方のクラスタに同期させます。 北米の 20,000 人のユーザを `cucm-cluster-na` に、ヨーロッパの 20,000 人のユーザを `cucm-cluster-eu` にプロビジョニングします。

ヨーロッパのユーザが北米のユーザに発信すると、Cisco Jabber が `cucm-cluster-na` からヨーロッパのユーザの連絡先詳細を取得します。

北米のユーザがヨーロッパのユーザに発信すると、Cisco Jabber が `cucm-cluster-eu` から北米のユーザの連絡先詳細を取得します。

フェデレーション

フェデレーションを使用すれば、Cisco Jabber ユーザは、別のシステム上でプロビジョニングされたユーザや Cisco Jabber 以外のクライアント アプリケーションを使用しているユーザと通信できます。

ドメイン間フェデレーション

ドメイン間フェデレーションでは、エンタープライズ ドメイン内の Cisco Jabber ユーザは、他のドメイン内のユーザとアベイラビリティを共有し、それらのユーザにインスタント メッセージを送信できます。

- Cisco Jabber ユーザは他のドメインの連絡先を手動で入力する必要があります。
- Cisco Jabber がサポートしているフェデレーション先は次のとおりです。
  - Microsoft Office Communications Server
  - Microsoft Lync
  - IBM Sametime
  - Google Talk などの XMPP 標準ベースの環境
  - AOL Instant Messenger

Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス上で Cisco Jabber のドメイン間フェデレーションを設定します。 詳細については、該当するサーバのドキュメントを参照してください。

関連トピック

Integration Guide for Configuring Cisco Unified Presence Release 8.6 for Interdomain Federation
『Interdomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager』

ドメイン内フェデレーション

ドメイン内フェデレーションでは、同じドメイン内のユーザはアベイラビリティを共有し、Cisco Unified Presence と Microsoft Office Communications Server、Microsoft Live Communications Server、または他のプレゼンス サーバ間でインスタント メッセージを送信できます。

ドメイン内フェデレーションを使用すると、ユーザを別のプレゼンス サーバから Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービスに移行できます。そのために、プレゼンス サーバ上で Cisco Jabber 用のドメイン内フェデレーションを設定します。詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- Cisco Unified Presence：『*Integration Guide for Configuring Partitioned Intradomain Federation for Cisco Unified Presence Release 8.6 and Microsoft LCS/OCS*』
- Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス：『*Partitioned Intradomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』

BDI または EDI のイントラドメイン フェデレーションの設定

プレゼンス サーバでのイントラドメイン フェデレーションの設定に加えて、Cisco Jabber コンフィギュレーション ファイルでいくつかの設定が必要になる場合があります。

連絡先の検索時に連絡先を解決したり、ディレクトリから連絡先情報を取得したりするには、Cisco Jabber で各ユーザの連絡先 ID が必要です。 Cisco Unified Presence では、特定の形式を使用して連絡先情報を解決しますが、この形式は、Microsoft Office Communications Server や Microsoft Live Communications Server などの他のプレゼンス サーバの形式と常に一致するわけではありません。

イントラドメイン フェデレーションの設定に使用されるパラメータは、拡張ディレクトリ統合（EDI）と基本ディレクトリ統合（BDI）のどちらを使用するかによって異なります。 EDI は、ネイティブな Microsoft Windows API を使用してディレクトリ サービスから連絡先データを取得し、Cisco Jabber for Windows でのみ使用されます。 BDI 場合は、クライアントがディレクトリ サービスから連絡先データを取得し、Cisco Jabber for Mac、Cisco Jabber for Android、および Cisco Jabber for iPhone and iPad で使用されます。

手順

ステップ 1 関連パラメータの値を true に設定します。

- BDI の場合：BDISipUriToResolveContacts
- EDI の場合：UseSIPURIToResolveContacts

ステップ 2 クライアントが連絡先情報を取得するために使用する Cisco Jabber 連絡先 ID を含む属性を指定します。 デフォルト値は `msRTCSIP-PrimaryUserAddress` です。関連パラメータで別の属性を指定することもできます。

- BDI の場合：BDISipUri
- EDI の場合：SipUri

（注） イントラドメイン フェデレーションを展開して、クライアントがファイアウォールの外側から Expressway for Mobile and Remote Access に接続しているときは、次のいずれかの形式が連絡先 ID に使用されている場合にのみ連絡先検索がサポートされます。

- sAMAccountName@domain
- UserPrincipleName（UPN）@domain
- EmailAddress@domain
- employeeNumber@domain
- phoneNumber@domain

ステップ 3 UriPrefix パラメータで、関連する SipUri パラメータ内の連絡先 ID の前に付けるプレフィックステキストを指定します。

例：
たとえば、SipUri の値として `msRTCSIP-PrimaryUserAddress` を指定します。 ディレクトリにおける各ユーザの `msRTCSIP-PrimaryUserAddress` の値は、`sip:username@domain` の形式になります。

- BDI の場合：BDIUriPrefix
- EDI の場合：UriPrefix

次の XML スニペットは、BDI 用の最終的な設定例を示しています。

```
<Directory>
  <BDIUseSIPURIToResolveContacts>true</BDIUseSIPURIToResolveContacts>
  <BDISipUri>non-default-attribute</BDISipUri>
  <BDIUriPrefix>sip:</BDIUriPrefix>
</Directory>
```

次の XML スニペットは、EDI 用の最終的な設定例を示しています。

```
<Directory>
  <UseSIPURIToResolveContacts>true</UseSIPURIToResolveContacts>
  <SipUri>non-default-attribute</SipUri>
  <UriPrefix>sip:</UriPrefix>
</Directory>
```

ディレクトリ統合のためのクライアント設定

Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以降を使用してサービス プロファイル経由で、コンフィギュレーション ファイルを使用して、ディレクトリ統合を設定できます。 ここでは、ディレクトリ統合のためにクライアントを設定する方法について説明します。

（注） サービス プロファイルと設定ファイルがある場合は、サービス プロファイルの設定が優先されます。

Cisco Unified Presence リリース 8.x プロファイルは、ディレクトリ統合に使用できません。

ディレクトリ統合を設定するタイミング

（注） Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールします。 この環境では、Cisco Jabber for Windows をディレクトリに接続するように設定する必要がありません。 クライアントはディレクトリを自動的に検出し、そのドメイン内のグローバル カタログ サーバに接続します。

次のいずれかを連絡先ソースとして使用する場合は、Cisco Jabber をディレクトリに接続するように設定します。

- ドメイン コントローラ
- Cisco Unified Communications Manager User Data Service
- OpenLDAP
- Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス
- Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード

オプションで、次のようにディレクトリ統合を設定できます。

- デフォルト属性マッピングを変更します。
- ディレクトリのクエリー設定を調整します。
- クライアントが連絡先写真を取得する方法を指定します。
- イントラドメイン フェデレーションを実行します。

サービス プロファイルでのディレクトリ統合の設定

Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以降では、サービス プロファイルを使用してユーザをプロビジョニングし、内部ドメイン サーバ上に `_cisco-uds` SRV レコードを展開できます。

そうすれば、クライアントが自動的に Cisco Unified Communications Manager を検出して、サービス プロファイルを受け取り、ディレクトリ統合設定を取得できます。 サービス ディスカバリについては、サービス ディスカバリの設定を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ディレクトリ サービスを追加する, （16 ページ）	
ステップ 2	サービス プロファイルへのディレクトリ サービスの適用, （20 ページ）	

ディレクトリ サービスを追加する

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）] を選択します。
[UC サービスの検索と一覧表示（Find and List UC Services）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加（Add New）] を選択します。
[UC サービスの設定（UC Service Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [UC サービス タイプ（UC Service Type）] メニューから [ディレクトリ（Directory）] を選択し、[次へ（Next）] を選択します。

ステップ 5 ディレクトリ サービスの値をすべて適切に設定したら、[保存（Save）] を選択します。

次の作業

ディレクトリ サービスを適用します。

ディレクトリ プロファイル パラメータ

次の表は、ディレクトリ プロファイルで設定できる設定パラメータを示します。

ディレクトリ サービスの設定	説明
プライマリ サーバ（Primary server）	プライマリ ディレクトリ サーバのアドレスを指定します。 このパラメータは、クライアントが自動的にディレクトリ サーバを検出できない手動接続に必要です。
セカンダリ サーバ	バックアップディレクトリサーバのアドレスを指定します。
ターシャリ サーバ（Tertiary Server）	ターシャリ ディレクトリ サーバのアドレスを指定します。
コンタクト解決に UDS を使用（Use UDS for Contact Resolution）	クライアントがUDSを連絡先ソースとして使用するかどうかを指定します。 **重要** このオプションが選択されている場合は、次のパラメータが使用されません。 （注） デフォルトで、ユーザが Expressway for Mobile and Remote Access 経由で社内ネットワークに接続するときに、UDS が連絡先解決を提供します。
ログインしたユーザのクレデンシャルを使用（Use Logged On User Credential）	クライアントがログオンしているユーザ名とパスワードを使用するかどうかを指定します。 **はい（True）** クレデンシャルを使用します。 これがデフォルト値です。 **いいえ（False）** クレデンシャルを使用しません。 クレデンシャルを BDIConnectionUsername と BDIConnectionPassword パラメータで指定します。

ディレクトリ サービスの設定	説明
ユーザ名	ディレクトリ サーバでの認証にクライアントが使用できる共有ユーザ名を手動で指定できるようにします。 デフォルトで、クライアントはディレクトリ サーバに接続するときに統合 Windows 認証を使用します。 このパラメータは、ユーザの Microsoft Windows クレデンシャルを使用してディレクトリ サーバで認証できないシナリオで、ユーザ名を手動で指定できるようにします。 読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットのみを使用します。
パスワード（Password）	ディレクトリ サーバでの認証にクライアントが使用できる共有パスワードを手動で指定できるようにします。 デフォルトで、クライアントはディレクトリ サーバに接続するときに統合 Windows 認証を使用します。 このパラメータは、ユーザの Microsoft Windows クレデンシャルを使用してディレクトリ サーバで認証できないシナリオで、パスワードを手動で指定できるようにします。 読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットのみを使用します。

ディレクトリ サービスの設定	説明
検索ベース 1（Search Base 1） 検索ベース 2（Search Base 2） 検索ベース 3（Search Base 3）	検索が開始されるディレクトリ サーバの場所を指定します。 つまり、検索ベースはクライアントが検索を実行するルートです。 デフォルトの場合、クライアントはディレクトリ ツリーのルートから検索を行います。 デフォルトの動作を上書きする場合は、最大 3 つの検索ベースの値を OU に指定することができます。 Active Directory は、通常、検索ベースを必要としません。特定のパフォーマンス要件がある場合にのみ、Active Directory の検索ベースを指定します。 ディレクトリ内の特定の場所へのバインディングを作成するには、Active Directory 以外のディレクトリ サーバの検索ベースを指定します。 **ヒント** OU を指定すると、検索対象を特定のユーザ グループに制限することができます。 たとえば、ユーザのサブセットがインスタント メッセージの機能だけを持っているとします。これらのユーザを OU に含め、この OU を検索ベースとして指定します。
すべての検索ベースで再帰検索（Recursive Search on All Search Bases）	検索ベースから始まるディレクトリの再帰検索を実行するには、このオプションを選択します。 再帰検索を使用して、Cisco Jabber クライアントの連絡先検索クエリーが指定された検索コンテキスト（検索ベース）からの LDAP ディレクトリ ツリーすべてを検索できるようにします。これは、LDAP 検索と共通のオプションです。 必須フィールドです。 デフォルト値は true です。
基本フィルタ（Base Filter）	Active Directory クエリーの基本フィルタを指定します。 ディレクトリのサブキー名のみを指定し、ディレクトリへのクエリーの実行時にユーザ オブジェクト以外のオブジェクトを取得します。 デフォルト値は `(&(objectCategory=person)` です。

ディレクトリ サービスの設定	説明
予測検索フィルタ（Predictive Search Filter）	予測検索クエリーに適用するフィルタを定義します。 検索クエリーをフィルタするために、複数のカンマ区切り値を定義できます。 デフォルト値は Ambiguous Name Resolution（ANR）です。 Cisco Jabber for Windows が予測検索を実行するときに、Ambiguous Name Resolution（ANR）を使用してクエリーを発行します。 このクエリーにより、検索文字列が明確化され、ディレクトリ サーバ上で ANR に対して設定された属性に合致する結果が返されます。 **重要** クライアントがその属性を探すようにするためには、ディレクトリ サーバを設定して、ANR の属性を設定する必要があります。

サービス ディスカバリは、[連絡先の解決にUDSを使用する（Use UDS for Contact Resolution）] が選択されている場合に UDS 検索を使用します。そうでない場合は、BDI または EDI 検索を使用します。 サービス ディスカバリでは、ディレクトリ プロファイル内の Username、Password、SearchBase1、PrimaryServerName、ServerPort1、UriPrefix、UseJabberCredentials、BaseFilter、PredictiveSearchFilter、および DirectoryServerType を使用して LDAP サーバに接続して連絡先が検索されます。

手動サインオンでは、ディレクトリ プロファイルからの Username と Password を使用して LDAP サーバに接続して連絡先が検索されます。

属性のマッピング

サービスプロファイルでデフォルトの属性マッピングを変更することはできません。デフォルトの属性マッピングを変更するには、クライアントの設定ファイルで必要なマッピングを定義しなければなりません。

サービス プロファイルへのディレクトリ サービスの適用

手順

ステップ 1 [ユーザ管理（User Management）]>[ユーザ設定（User Settings）]>[サービス プロファイル（Service Profile）] の順に選択します。
[サービス プロファイルの検索と一覧表示（Find and List Service Profiles）] ウィンドウが開きます。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] を選択します。

[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 ディレクトリ プロファイルにディレクトリ サービスを追加します。 ディレクトリ プロファイルに必要な特定の設定については、「ディレクトリ プロファイル パラメータ」の項を参照してください。

ステップ 4 [保存（Save）] を選択します。

コンフィギュレーション ファイルでのディレクトリ統合の設定

Cisco Jabber コンフィギュレーション ファイルでディレクトリ統合を設定できます。 以下のセクションでは、設定可能なパラメータについて説明します。設定例が含まれるセクションもあります。

重要 サービス プロファイルとコンフィギュレーション ファイルが存在する場合は、常に、サービス プロファイル内の設定が優先されます。

ディレクトリ統合設定パラメータの概要

次の表は、すべてのディレクトリ統合パラメータの概要を示しています。

属性のマッピング

次のパラメータは、LDAP ディレクトリ サーバでの属性のマッピングに使用されます。

BDI パラメータ	EDI パラメータ
• BDICommonName • BDIDisplayName • BDIFirstname • BDILastname • BDIEmailAddress • BDISipUri • BDIPhotoSource • BDIBusinessPhone • BDIMobilePhone • BDIHomePhone • BDIOtherPhone • BDIDirectoryUri • BDITitle • BDICompanyName • BDIUserAccountName • BDIDomainName • BDICountry • BDILocation • BDINickname • BDIPostalCode • BDICity • BDIState • BDIStreetAddress	• CommonName • DisplayName • Firstname • Lastname • EmailAddress • SipUri • PhotoSource • BusinessPhone • MobilePhone • HomePhone • OtherPhone • DirectoryUri • Title • CompanyName • UserAccountName • DomainName • Country • Location • Nickname • PostalCode • City • State • StreetAddress

ディレクトリ サーバの接続

これらのパラメータは、LDAP ディレクトリ サーバへの接続に使用されます。

BDI パラメータ	EDI パラメータ
• BDILDAPServerType • BDIPresenceDomain • BDIPrimaryServerName • BDIServerPort1 • BDIUseJabberCredentials • BDIConnectionUsername • BDIConnectionPassword • BDIEnableTLS	• DirectoryServerType • ConnectionType • PrimaryServerName • SecondaryServerName • ServerPort1 • ServerPort2 • UseWindowsCredentials • ConnectionUsername • ConnectionPassword • UseSSL • UseSecureConnection

連絡先の解決とディレクトリ クエリー

これらのパラメータは、LDAP ディレクトリ サーバでの連絡先の解決とディレクトリ クエリーに使用されます。

BDI パラメータ	EDI パラメータ
• BDIBaseFilter • BDIUseANR • BDIPredictiveSearchFilter • BDISearchBase1 • BDIPhotoUriSubstitutionEnabled • BDIPhotoUriSubstitutionToken • BDIPhotoUriWithToken • BDIUseSIPURIToResolveContacts • BDIUriPrefix • BDIDirectoryUri • BDIDirectoryUriPrefix	• BaseFilter • PredictiveSearchFilter • DisableSecondaryNumberLookups • PhoneNumberMasks • SearchTimeout • UseWildcards • MinimumCharacterQuery • SearchBase1、SearchBase2、SearchBase3、SearchBase4、SearchBase5 • PhotoUriSubstitutionEnabled • PhotoUriSubstitutionToken • PhotoUriWithToken • UseSIPURIToResolveContacts • UriPrefix • DirectoryUri • DirectoryUriPrefix

UDS

これらのパラメータは、連絡先ソースとして UDS とやり取りするために使用されます。

- DirectoryServerType
- PresenceDomain
- UdsServer
- UdsPhotoUriWithToken

ディレクトリ サーバ タイプ パラメータ

`jabber-config.xml` ファイルで、次のパラメータを使用してディレクトリ サーバ タイプを指定します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	BDI EDI UDS	使用するディレクトリ サーバの種類を指定します。 • BDI：LDAP サーバに接続します。 • EDI：LDAP サーバに接続します。 • UDS：UDS に接続します。

EDI および BDI ディレクトリ統合パラメータ

ここでは、LDAP ベースのディレクトリ統合に設定可能な EDI パラメータと BDI パラメータの詳細を示します。

属性マッピングのパラメータ

次の表に、LDAP ディレクトリ属性をマッピングするためのパラメータを示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	ディレクトリ属性	デフォルトでグローバルカタログ内に存在する	デフォルトでインデックス化されている	デフォルトで Ambiguous Name Resolution（ANR）に設定されている
BDICommonName	CommonName	cn	Yes	Yes	No
BDIDisplayName	displayName	displayName	Yes	Yes	Yes
BDIFirstname	Firstname	givenName	Yes	Yes	Yes
BDILastname	Lastname	sn	Yes	Yes	Yes
BDIEmailAddress	EmailAddress	mail	Yes	Yes	Yes

BDI パラメータ	EDI パラメータ	ディレクトリ属性	デフォルトでグローバルカタログ内に存在する	デフォルトでインデックス化されている	デフォルトで **Ambiguous Name Resolution**（**ANR**）に設定されている
BDISipUri （注） クライアントは、URI ダイヤルではなく、ドメイン内フェデレーションにこのパラメータを使用します。	SipUri （注） クライアントは、URI ダイヤルではなく、ドメイン内フェデレーションにこのパラメータを使用します。	msRTCSIP-PrimaryUserAddress	Yes	Yes	Yes
BDIPhotoSource	PhotoSource	thumbnailPhoto	No	No	No
BDIBusinessPhone	BusinessPhone	telephoneNumber	Yes	No	No
BDIMobilePhone	MobilePhone	mobile	Yes	No	No
BDIHomePhone	HomePhone	homePhone	Yes	No	No
BDIOtherPhone	OtherPhone	otherTelephone	Yes	No	No
BDIDirectoryUri （注） クライアントは、URI ダイヤルにこのパラメータを使用します。	DirectoryURI （注） クライアントは、URI ダイヤルにこのパラメータを使用します。	mail	Yes	No	No
BDITitle	Title	title	Yes	No	No
BDICompanyName	CompanyName	company	Yes	Yes	No
BDIUserAccountName	UserAccountName	sAMAccountName	Yes	Yes	Yes

BDI パラメータ	EDI パラメータ	ディレクトリ属性	デフォルトでグローバルカタログ内に存在する	デフォルトでインデックス化されている	デフォルトで Ambiguous Name Resolution（ANR）に設定されている
BDIDomainName	DomainName	EDI - userPrincipalName BDI - dn	Yes	Yes	No
BDICountry		co	Yes	No	No
BDILocation	Location	EDI - co BDI - location	Yes	No	No
BDINickname	Nickname	displayName	Yes	Yes	Yes
BDIPostalCode	PostalCode	postalCode	Yes	No	No
BDICity	City	l	Yes	Yes	No
BDIState	State	st	Yes	Yes	No
BDIStreetAddress	StreetAddress	StreetAddress	Yes	No	No

ディレクトリ サーバの属性

クライアントがコンタクトを解決できるように、LDAP ディレクトリ サーバの属性のインデックスを作成する必要があります。

デフォルトの属性マッピングを使用する場合は、次の属性がインデックス化されていることを確認します。

- sAMAccountName
- displayName
- sn
- name
- proxyAddresses
- mail
- department
- givenName
- telephoneNumber

さらに、セカンダリ番号クエリーについては、次の属性もインデックス化する必要があります。

- otherTelephone
- mobile
- homePhone

（注） Cisco Jabber for Windows では、デフォルトで、セカンダリ番号クエリーが有効になっています。セカンダリ番号クエリーは、DisableSecondaryNumberLookups パラメータを使用して無効にすることができます。

- msRTCSIP-PrimaryUserAddress

Cisco Jabber for Windows はデフォルトでグローバル カタログ サーバに接続するため、すべての属性がグローバル カタログ サーバ上に存在することを確認する必要があります。 Microsoft Active Directory スキーマ スナップインなどの適切なツールを使用すると、グローバル カタログ サーバに属性を複製できます。

- グローバル カタログ サーバに属性を複製すると、ドメイン内の Active Directory サーバ間でトラフィックが生成されます。 そのため、ネットワーク トラフィックが余分な負荷を処理できる時間帯にグローバル カタログ サーバに属性を複製します。
- グローバル カタログ サーバに属性を複製しない場合は、ドメイン コントローラに接続するように Cisco Jabber を設定します。 ただし、クライアントがドメイン コントローラに接続する場合は単一のドメインしか問い合わせません。

ディレクトリ接続パラメータ

次の表に、LDAP ディレクトリ接続を設定するためのパラメータを示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
	ConnectionType	0 1	クライアントがグローバル カタログに接続するのか、ドメイン コントローラに接続するのかを指定します。 • 0（デフォルト）：グローバル カタログに接続します。 • 1：ドメイン コントローラに接続します。 （注） デフォルト ポートは次のとおりです。 • グローバル カタログ：3268 • ドメイン コントローラ：389
BDILDAPServerType		AD OpenLDAP	クライアントが接続する LDAP ディレクトリ サーバのタイプを指定します。 • AD（デフォルト）：Active Directory に接続します。 • OpenLDAP：OpenLDAP に接続します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIPresenceDomain		プレゼンス ノードのドメイン。	必須パラメータです。プレゼンス ノードのドメインを指定します。 クライアントは、IM アドレスを作成するために、このドメインをユーザ ID に付加します。 たとえば、Adam McKenzie という名前のユーザのユーザ ID が *amckenzie* であるとします。プレゼンス ノード ドメインとして *example.com* を指定します。 ユーザがログインすると、クライアントは Adam McKenzie 用に *amckenzie@example.com* という IM アドレス を作成します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIPrimaryServerName	PrimaryServerName	IP アドレス（IP Address） FQDN	

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
			必須パラメータです。プライマリ ディレクトリ サーバのアドレスを指定します。 このパラメータは、クライアントが自動的にディレクトリ サーバを検出できない手動接続に必要です。 （注） クライアントは、起動するたびにプライマリ サーバに接続しようと試行します。 クライアントは次の場合に、セカンダリ サーバに接続しようと試行します。 • プライマリ サーバが使用できない。 • クライアントが接続すると、プライマリ サーバに障害が発生する。 セカンダリ サーバに正常に接続できれば、クライアントは次回再起動されるまでセカンダリ サーバへの接続を保持します。 クライアントが接続されているときに、セカンダリ サーバに障害が発生すると、クライ

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
			アントはプライマリ サーバに接続しようと試行します。
	SecondaryServerName	IP アドレス（IP Address） FQDN	バックアップディレクトリ サーバのアドレスを指定します。 このパラメータは、クライアントが自動的にディレクトリ サーバを検出できない手動接続に必要です。
BDIServerPort1	ServerPort1	ポート番号	プライマリ ディレクトリ サーバのポートを指定します。
ServerPort2	ServerPort2	ポート番号	バックアップディレクトリ サーバのポートを指定します。
	UseWindowsCredentials	0 1	クライアントが Microsoft Windows のユーザ名とパスワードを使用するかどうかを指定します。 • 0：Windows クレデンシャルを使用しません。 ConnectionUsername パラメータと ConnectionPassword パラメータを使用してクレデンシャルを指定します。 • 1（デフォルト）：Windows クレデンシャルを使用します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIUseJabberCredentials		true false	クライアントがプレゼンス サーバを使用してディレクトリ サーバにサイン インできるかどうかを指定します。 • true：クライアントは次の順序でユーザ名とパスワードを検索します。 1 クライアント コンフィギュレーション ファイル（BDIConnectionUsername と BDIConnectionPassword） 2 プレゼンス サーバ クレデンシャルが存在しない場合、クライアントは匿名サインインを試みます。 • false（デフォルト）：クライアントはコンフィギュレーション ファイル内の BDIConnectionUsername と BDIConnectionPassword の値を使用してサインインを試みます。 パラメータが存在しない場合は、クライアントが匿名でサインインを試みます。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIConnectionUsername	ConnectionUsername	ユーザ名（Username）	ディレクトリ サーバでの認証にクライアントが使用できる共有ユーザ名を手動で指定できるようにします。 **重要** クライアントは、このユーザ名をプレーン テキストとして転送して保存します。 デフォルトで、Cisco Jabber for Windows は、ディレクトリ サーバに接続するときに統合 Windows 認証を使用します。 このパラメータは、ユーザの Microsoft Windows クレデンシャルを使用してディレクトリ サーバで認証できないシナリオで、ユーザ名を手動で指定できるようにします。 ディレクトリに対する読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットのみを使用します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIConnectionPassword	ConnectionPassword	パスワード	ディレクトリ サーバでの認証にクライアントが使用できる共有パスワードを手動で指定できるようにします。 **重要** クライアントは、このパスワードをプレーン テキストとして転送して保存します。 デフォルトで、Cisco Jabber for Windows は、ディレクトリ サーバに接続するときに統合 Windows 認証を使用します。 このパラメータは、ユーザの Microsoft Windows クレデンシャルを使用してディレクトリ サーバで認証できないシナリオで、パスワードを手動で指定できるようにします。 ディレクトリに対する読み取り専用権限を持っているアカウントの既知のまたは公開されているクレデンシャルのセットを使用します。
BDIEnableTLS		true false	ディレクトリの接続を保護するために TLS を使用します。 • true：TLS を使用します。 • false（デフォルト）：TLS を使用しません。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
	UseSSL	0 1	ディレクトリへのセキュア接続に SSL を使用します。 • 0（デフォルト）：SSL を使用しません。 • 1：SSL を使用します。 SSL 接続の証明書が次の場所に存在する必要があります。 • Microsoft Windows 証明書ストア。 • クライアントが接続するディレクトリ サーバ。 SSL 接続を確立するために、サーバはクライアントに証明書を提示します。その後、クライアントはサーバの証明書をクライアント コンピュータのストアにある証明書に対して検証します。 SSL 接続のデフォルト プロトコルおよびポートは、次のとおりです。 • グローバル カタログ • プロトコル：TCP • ポート番号：3269 • ドメイン コントローラ • プロトコル：TCP • ポート番号：636

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
	UseSecureConnection	0 1	ディレクトリ サーバとの認証のメカニズムを指定します。 • 0：単純な認証を使用します。 簡易バインドを使用してディレクトリ サーバに接続するには、この値を設定します。Simple Authentication では、クライアントはクレデンシャルをプレーン テキストとして転送します。UseSSL パラメータを使用して SSL を有効にし、クレデンシャルを暗号化できます。 • 1（デフォルト）：Generic Security Service API（GSS-API）を使用します。 GSS-API はシステムの認証メカニズムを利用します。Microsoft Windows 環境で GSS-API を使用すれば、Kerberos ベースの Windows 認証を使用してディレクトリ サーバに接続できます。

IM アドレス スキーム パラメータ

次の表に、IM アドレス スキームを設定するためのパラメータの説明を示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明（Description）
BDIUseSipUriTo ResolveContacts	UseSipUriTo ResolveContacts	true false	使用する IM アドレス スキームを指定します。 • true：ディレクトリ URI スキームを使用します。 • false（デフォルト）：User ID@[Default Domain] スキームを使用します。
BDIUriPrefix	UriPrefix	プレフィックス文字列	SipUri または BDISipUri パラメータから除外するプレフィックスを指定します。 たとえば、sip: が msRTCSIP-PrimaryUserAddress ディレクトリ属性の前に付加されている場合があります。
BDISipUri	SipUri	メールアドレス msRTCSIP PrimaryUser アドレス	IM アドレス スキーム フィールドをマッピングするディレクトリ属性フィールドを指定します。

次の XML スニペットは、BDI 用の最終的な設定例を示しています。

```
<Directory>
  <BDIUseSIPURIToResolveContacts>true</BDIUseSIPURIToResolveContacts>
  <BDISipUri>non-default-attribute</BDISipUri>
  <BDIUriPrefix>sip:</BDIUriPrefix>
</Directory>
```

次の XML スニペットは、EDI 用の最終的な設定例を示しています。

```
<Directory>
  <UseSIPURIToResolveContacts>true</UseSIPURIToResolveContacts>
  <SipUri>non-default-attribute</SipUri>
  <UriPrefix>sip:</UriPrefix>
</Directory>
```

ディレクトリ クエリー パラメータ

次の表に、クライアントによる LDAP ディレクトリへのクエリー方法を設定するためのパラメータを示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIBaseFilter	BaseFilter	基本フィルタ	Active Directory クエリーの基本フィルタを指定します。 ディレクトリのサブキー名のみを指定し、ディレクトリへのクエリーの実行時にユーザ オブジェクト以外のオブジェクトを取得します。 Cisco Jabber for iPhone and iPad のデフォルト値は、`(&(objectCategory=person)` です。 他のクライアントのデフォルト値は、`(&(objectCategory=person))` です。 設定ファイルには、有効な XML 文字実体参照のみを含めることができます。 カスタム基本フィルタを指定する場合には、`&` の代わりに `&` を使用します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIUseANR		true false	予測検索の実行時に、Cisco Jabber が Ambiguous Name Resolution（ANR）を使用してクエリーを発行するかどうかを指定します。 • true（デフォルト）：予測検索に ANR を使用します。 OpenLDAP を使用する場合は、デフォルト値が false になります。 • false：予測検索に ANR を使用しません。 Active Directory 以外のディレクトリ ソースと統合する場合は、この値を false に設定します。 **重要** クライアントに ANR の属性を検索させる場合は、その属性を設定するようにディレクトリ サーバを設定します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIPredictiveSearchFilter	PredictiveSearchFilter	サーチ フィルタ	予測検索クエリーに適用するフィルタを定義します。 検索クエリーをフィルタするために、複数のカンマ区切り値を定義できます。 （注） このキーは、BDIUseANR が false に設定されている場合に、Cisco Jabber for iPhone and iPad でのみ使用されます。 また、BDI PredictiveSearchFilter が設定されていない場合は、デフォルトの検索フィルタが使用されます。 デフォルトの EDI 値は anr です。 Cisco Jabber for Windows が予測検索を実行するときに、ANR を使用してクエリーを発行します。 このクエリーにより、検索文字列が明確化され、ディレクトリ サーバ上で ANR に対して設定された属性に合致する結果が返されます。 **重要** クライアントに ANR の属性を検索させる場合は、その属性を設定するようにディレクトリ サーバを設定します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
	DisableSecondaryNumberLookups	0 1	携帯電話番号、自宅の電話番号、他の電話番号などの仕事用の番号を使用できない場合に、ユーザが代替連絡先番号を検索できるかどうかを指定します。 • 0（デフォルト）：ユーザは代替連絡先番号を検索できます。 • 1：ユーザは代替連絡先番号を検索できません。
	SearchTimeout	秒数	クエリのタイムアウト時間を秒数で指定します。 デフォルト値は 5 です。
	UseWildcards	0 1	ワイルドカード検索を有効にします。 • 0（デフォルト）：ワイルドカードを使用しません。 • 1：ワイルドカードを使用します。 ワイルドカードを使用すると、ディレクトリの検索に時間がかかる場合があります。
	MinimumCharacterQuery	数値	ディレクトリのクエリーを行うために連絡先名の最小文字数を指定します。 たとえば、このパラメータの値として 2 を設定した場合、ユーザが検索フィールドに少なくとも 2 文字を入力するとクライアントはディレクトリを検索します。 デフォルト値は 3 です。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDISearchBase1	SearchBase1 SearchBase2 SearchBase3 SearchBase4 SearchBase5	ディレクトリ ツリーで検索可能な組織単位（OU）	検索が開始されるディレクトリ サーバの場所を指定します。つまり、検索ベースはクライアントが検索を実行するルートです。 デフォルトの場合、クライアントはディレクトリ ツリーのルートから検索を行います。デフォルトの動作を上書きする場合は、最大 5 つの検索ベースの値を OU に指定することができます。 Active Directory は、通常、検索ベースを必要としません。 特定のパフォーマンス要件がある場合にのみ、Active Directory の検索ベースを指定します。 ディレクトリ内の特定の場所へのバインディングを作成するには、Active Directory 以外のディレクトリ サーバの検索ベースを指定します。 **ヒント** OU を指定すると、検索対象を特定のユーザ グループに制限することができます。 たとえば、ユーザのサブセットが IM 機能だけを使用しているとします。 これらのユーザを OU に含め、この OU を検索ベースとして指定します。

基本フィルタの例

次は、特定のロケーションやオブジェクトを検索する場合に使用できる基本フィルタの例です。

特定のグループのみを検索する場合：

```
(&amp;(objectClass=user)(memberOf=cn=group-name,ou=Groups,dc=example,dc=com))
```

グループ内のネストされたグループを検索する場合：

```
(&amp;(objectClass=user)(memberOf:search-oid:=cn=group-name,ou=Groups,dc=example,dc=com))
```

有効なアカウントと管理者以外のアカウントのみを検索する場合：

```
(&amp;(objectCategory=person)(objectClass=user)(!(userAccountControl:search-oid:=2))
(!(sAMAccountName=*_dbo))(!(sAMAccountName=*-admin)))
```

電話番号マスク パラメータ

電話番号マスク パラメータはEDIにのみ適用されます。 次の表に、電話番号の解決のためのマスクを設定するパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明（Description）
PhoneNumberMasks	マスク文字列	ユーザが電話番号を検索するときに使用するマスクを指定します。 たとえば、ユーザが +14085550100 からのコールを受信するとします。ディレクトリでは、この番号は +(1) 408 555 0100 です。 `+1408|+(#) ### ### ####` というマスクが番号に解決されます。 マスク文字列の長さは、レジストリ サブキー名のサイズ制限を超えることはできません。

電話マスクは、クライアントでディレクトリを検索する前に電話番号に適用されます。 電話マスクを正しく設定すると、クエリーが完全に一致するため、ディレクトリ検索が成功し、ディレクトリ サーバのパフォーマンスへの影響が回避されます。

次の表に、電話マスクに含めることができる要素を示します。

要素	説明
電話番号パターン	番号パターンを設定してディレクトリから電話番号を取得します。 電話マスクを追加するには、マスクを適用する番号パターンを指定します。 たとえば、+1408 で始まる検索に対してマスクを指定するには、+1408|+(#) ### ### #### のマスクを使用します。 桁数が同じでもパターンが異なる電話番号をマスクで処理できるようにするには、桁数が同じ複数のマスクを使用します。 たとえば、会社にサイト A とサイト B があるとします。 各サイトでは、次のように電話番号の形式が異なる個別のディレクトリを管理します。 +(1) 408 555 0100 +1-510-5550101 +1408|+(#) ### ### ####|+1510|+#-###-####### のマスクにより、両方の番号を正しく使用できます。
パイプ記号（|）	番号パターンとマスクを区切ります。 たとえば、+1408|+(#) ### ### ####|+34|+(##) ### #### です。
ワイルドカード文字	一致すると思われる文字のサブセットの代わりに 1 つ以上の文字を使用します。 電話マスクで任意のワイルドカード文字を使用できます。 たとえば、アスタリスク（*）は、1 つ以上の文字を表し、+3498|+##*##*###*#### のようにマスクに適用できます。 ワイルドカードとともにこのマスクを使用すると、電話番号検索で次のいずれかの形式と一致します。 +34(98)555 0199 +34 98 555-0199 +34-(98)-555.0199
逆マスク	番号パターンを右から左に適用します。 たとえば、+34985590199 に +3498|R+34 (98) 559 #### のマスクを適用すると、+34 (98) 559 0199 が取得されます。 順マスクと逆マスクの両方を使用できます。

連絡先の写真のパラメータ

次の表に、クライアントが LDAP ディレクトリから連絡先の写真を取得する方法を設定するパラメータを示します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIPhotoUriSubstitutionEnabled	PhotoUriSubstitutionEnabled	true false	写真URIの代替が有効であるかどうかを指定します。 • true：写真URIの代替が有効にされます。 • false（デフォルト）：写真URIの代替が無効かどうかを指定します。

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIPhotoUriSubstitutionToken	PhotoUriSubstitutionToken	ディレクトリ属性	写真URIに挿入するディレクトリ属性を指定します（sAMAccountName など）。 PhotoURISubstitutionToken パラメータと組み合わせて使用できるのは次の属性だけです。 • Common Name • 表示名（Display Name） • 名 • 姓 • Nickname • 電子メール アドレス（Email Address） • フォト ソース（Photo Source） • 会社電話（Business Phone） • 携帯電話（Mobile Phone） • 自宅電話（Home Phone） • 連絡先電話番号 • 他の電話（Other Phone） • 役職（Title） • Company Name（会社名） • ユーザ アカウント名（User Account Name） • ドメイン名（Domain Name） • 参照先 • 郵便番号（Post Code） • State • 市区町村郡（City） • 道路の

BDI パラメータ	EDI パラメータ	値	説明
BDIPhotoUriWithToken	PhotoUriWithToken	URI	変数値として、ディレクトリ属性が付いた写真URIを指定します。 次に例を示します。 http://staffphoto.example.com/sAMAccountName.jpg パラメータはLDAPディレクトリ統合に適用されます。 写真 URI の代替を設定するには、BDIPhotoUriSubstitutionToken の値としてディレクトリ属性を設定します。 **制約事項** クライアントはクレデンシャルなしで、Web サーバから画像を取得できる必要があります。
BDIPhotoSource	PhotoSource	ディレクトリ属性	連絡先の写真をバイナリ オブジェクトとしてまたは写真のURIの形で格納するディレクトリ属性の名前。

連絡先の写真の取得

Cisco Jabber は、次のように連絡先写真を取得して表示します。

（注） Active Directory で写真を変更してから Cisco Jabber で写真が更新されるまで最大 24 時間かかります。

URI 置換

Cisco Jabber は、ディレクトリ属性と URL テンプレートを使用して連絡先写真への URL を動的に作成します。

この方法を使用するには、設定ファイルで次の値を設定します。

1. BDIPhotoUriSubstitutionEnabled または PhotoUriSubstitutionEnabled パラメータの値として `true` を指定します。
2. 動的トークンとして使用するディレクトリ属性を BDIPhotoUriSubstitutionToken または PhotoUriSubstitutionToken パラメータの値として指定します。 次の例を参考にしてください。

```
<BDIPhotoUriSubstitutionToken>sAMAccountName</BDIPhotoUriSubstitutionToken>
<PhotoUriSubstitutionToken>sAMAccountName</PhotoUriSubstitutionToken>
```

3 BDIPhotoUriWithToken または PhotoUriWithToken パラメータの値として URL と動的トークンを指定します。 次の例を参考にしてください。

```
<BDIPhotoUriWithToken>http://staffphoto.example.com/sAMAccountName.jpg</BDIPhotoUriWithToken>
<PhotoUriWithToken>http://staffphoto.example.com/sAMAccountName.jpg</PhotoUriWithToken>
```

上記の手順で例として示した値の場合、sAMAccountName 属性はディレクトリの msmith と解決されます。 その後で、Cisco Jabber が、この値を取得してトークンを置換し、http://staffphoto.example.com/msmith.jpg という URL を作成します。

バイナリ オブジェクト

Cisco Jabber は、データベースから写真のバイナリ データを取得します。

Active Directory からのバイナリ オブジェクトを使用している場合は、BDIPhotoUriWithToken または PhotoUriWithToken を設定しないでください。

この方法を使用して連絡先写真を取得するには、設定で BDIPhotoSource または PhotoSource パラメータの値としてバイナリ データを含む属性を指定します。 次の例を参考にしてください。

```
<BDIPhotoSource>jpegPhoto</BDIPhotoSource>
<PhotoSource>thumbnailPhoto</PhotoSource>
```

PhotoURL 属性

Cisco Jabber は、ディレクトリ属性から URL を取得します。

この方法を使用して連絡先写真を取得するには、設定で BDIPhotoSource または PhotoSource パラメータの値として写真の URL を含む属性を指定します。 次の例を参考にしてください。

```
<BDIPhotoSource>photoUri</BDIPhotoSource>
<PhotoSource>photoUri</PhotoSource>
```

UDS パラメータ

次の表に、UDSに接続して、連絡先解決とディレクトリ クエリーを実行するためにコンフィギュレーション ファイル内で使用可能なパラメータの詳細を示します。

パラメータ	値	説明（Description）
PresenceDomain	プレゼンス ノードのドメイン。	必須パラメータです。 プレゼンス サーバのドメインを指定します。 クライアントは、IM アドレスを作成するために、このドメインをユーザ ID に付加します。 たとえば、Adam McKenzie という名前のユーザのユーザ ID が amckenzie であるとします。 プレゼンス サーバ ドメインとして example.com を指定します。 ユーザがログインすると、クライアントは Adam McKenzie に amckenzie@example.com という IM アドレスを構築します。

パラメータ	値	説明（**Description**）
UdsServer	IP アドレス FQDN	Cisco Unified Communications Manager User Data Service（UDS）サーバのアドレスを指定します。 このパラメータは、クライアントが自動的に UDS サーバを検出できない手動接続の場合に必要です。
UdsPhotoUriWithToken	URI	変数値としてディレクトリ属性を使用する、写真 URI を指定します（`http://www.photo/url/path/%%uid%%.jpg` など）。 このパラメータは UDS ディレクトリ統合に適用されます。 次のいずれかのケースで連絡先の写真をダウンロードするには、このパラメータを指定する必要があります。 • UDS を使用するように DirectoryServerType パラメータを設定した場合。 この設定では、企業のファイアウォールの内側または外側のクライアントが連絡先解決に UDS を使用します。 • Expressway for Mobile and Remote Access を展開した場合。 この設定では、企業のファイアウォールの外側のクライアントが自動的に連絡先解決に UDS を使用します。 **制約事項** クライアントはクレデンシャルなしで、Web サーバから画像を取得できる必要があります。
UseSIPURIToResolveContacts	true false	使用する IM アドレス スキームを指定します。 • true：ディレクトリ URI スキームを使用します。 • false（デフォルト）：User ID@[Default Domain] スキームを使用します。
UriPrefix	プレフィックス文字列	SipUri または BDISipUri パラメータから除外するプレフィックスを指定します。 たとえば、sip: が msRTCSIP-PrimaryUserAddress ディレクトリ属性の前に付加されている場合があります。

パラメータ	値	説明（Description）
SipUri	メール アドレス msRTCSIP-PrimaryUserAddress	IM アドレス スキーム フィールドをマッピングするディレクトリ属性フィールドを指定します。

UDS を使用した IM アドレス スキーム

次の XML スニペットは UDS を使用した IM アドレス スキームの例です。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>UDS</DirectoryServerType>
  <UseSIPURIToResolveContacts>true</UseSIPURIToResolveContacts>
  <SipUri>non-default-attribute</SipUri>
  <UriPrefix>sip:</UriPrefix>
</Directory>
```

UDS を使用した連絡先写真の取得

Cisco Unified Communications Manager User Data Service（UDS）は、連絡先写真の URL をディレクトリ属性と URL テンプレートを使用して動的に構築します。

UDS を使用して連絡先写真を解決するには、UdsPhotoUriWithToken パラメータの値として連絡先写真の URL の形式を指定します。 また、*%%uid%%* トークンを挿入して URL の連絡先のユーザ名を置換します。例：

```
<UdsPhotoUriWithToken>http://server_name/%%uid%%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>
```

UDS が *%%uid%%* トークンを UDS 内の `userName` 属性の値に置き換えます。 たとえば、Mary Smith という名前のユーザがディレクトリに存在するとします。 Mary Smith の `userName` 属性は msmith です。 Mary Smith の連絡先写真を解決するために、Cisco Jabber は `userName` 属性の値を取得して、*%%uid%%* トークンを置き換えることによって、`http://staffphoto.example.com/msmith.jpg` という URL を構築します。

（注） Active Directory で写真を変更してから Cisco Jabber で写真が更新されるまで最大 24 時間かかります。

重要

- Expressway for Mobile and Remote Access が展開されている場合は、ユーザが社内ネットワークの外部からサービスに接続すると、クライアントが自動的に接続先解決に UDS を使用します。 Expressway for Mobile and Remote Access 用の UDS 連絡先解決をセットアップするときに、連絡先写真をホストする Web サーバを Cisco Expressway-C サーバ設定の HTTP サーバ許可リストに追加する必要があります。 HTTP サーバの許可リストは、クライアントが社内ネットワーク内の Web サービスにアクセスできるようにします。
- すべての連絡先写真は、UdsPhotoUriWithToken の値として指定された URL の形式に従う必要があります。

ディレクトリ サーバ設定の例

ここでは、サポートされている統合シナリオについて説明し、設定の例を示します。

ドメイン コントローラの接続

ドメイン コントローラに接続するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI
ConnectionType	1

設定例を次に示します。

```
<Directory><DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
<ConnectionType>1</ConnectionType></Directory>
```

Cisco Jabber for Windows の手動サーバ接続

手動でディレクトリ サーバに接続するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI
PrimaryServerName	FQDN IP アドレス
ServerPort1	ポート番号
SecondaryServerName	FQDN IP アドレス
ServerPort2	ポート番号

設定例を次に示します。

```
<Directory>
<DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
<PrimaryServerName>primary-server-name.domain.com</PrimaryServerName>
<ServerPort1>1234</ServerPort1>
<SecondaryServerName>secondary-server-name.domain.com</SecondaryServerName>
<ServerPort2>5678</ServerPort2>
</Directory>
```

UDS の統合

UDS と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	UDS
UdsServer	UDS サーバの IP アドレス
UdsPhotoUriWithToken	連絡先写真の URL
PresenceDomain （注） このパラメータを使用するのは、電話機モードだけです。	既存ドメインのサーバ アドレス

（注） すべての連絡先解決（つまり、企業ファイアウォールの内側と外側）に UDS を使用する場合にのみ、DirectoryServerType パラメータを UDS に設定します。

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>UDS</DirectoryServerType>
  <UdsServer>11.22.33.444</UdsServer>
  <UdsPhotoUriWithToken>http://server-name/%%uid%%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>
</Directory>
```

Expressway for Mobile and Remote Access の LDAP 統合

LDAP ディレクトリ統合と Expressway for Mobile and Remote Access が展開されている場合、クライアントは以下を使用します。

- 企業ファイアウォール内では LDAP
- 企業ファイアウォール外では UDS

（注） LDAP がデフォルト設定のため、クライアント コンフィギュレーション ファイルに DirectoryServerType パラメータを含める必要はありません。

クライアントが企業ファイアウォールの内側でも外側でも連絡先写真を解決できるよう、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
BDIPhotoUriWithToken	企業ファイアウォール内での連絡先写真 URL
UdsPhotoUriWithToken	企業ファイアウォール外での連絡先写真 URL

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <BDIPhotoUriWithToken>http://photo.example.com/sAMAccountName.jpg</BDIPhotoUriWithToken>
  <UdsPhotoUriWithToken>http://server-name/%%uid%%.jpg</UdsPhotoUriWithToken>
</Directory>
```

Cisco Jabber for Windows 用の単純な認証

単純な認証では、次の設定例のように簡易バインドを使用してディレクトリ サーバに接続することができます。

```
<UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
<UseSSL>0</UseSSL>
<UseSecureConnection>0</UseSecureConnection>
<ConnectionUsername>username</ConnectionUsername>
<ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
```

この設定は、クライアントに対して次を指定します。

- Microsoft Windows クレデンシャルを使用しない。
- SSL を使用しない。
- 単純な認証を使用する。
- カスタム クレデンシャルを使用する。

簡易バインドのため、クライアントはバインド要求のペイロード内のクレデンシャルをプレーンテキストで送信します。

モバイル クライアントと Cisco Jabber for Mac 用の単純な認証

単純な認証では、次の設定例のように簡易バインドを使用してディレクトリ サーバに接続することができます。

```
<BDIEnableTLS>False</BDIEnableTLS>
<BDIConnectionUsername>username</BDIConnectionUsername>
<BDIConnectionPassword>password</BDIConnectionPassword>
<BDIServerPort1>389/3268</BDIServerPort1>
```

この設定は、クライアントに対して次を指定します。

- SSL を使用しない。
- 単純な認証を使用する。
- カスタム クレデンシャルを使用する。
- TLS 以外にポート 389/3268 を使用する。

簡易バインドのため、クライアントはバインド要求のペイロード内のクレデンシャルをプレーンテキストで送信します。

Cisco Jabber for Windows 用の SSL を使用した単純な認証

UseSSL パラメータを使用して、ディレクトリ サーバ接続で SSL を有効にします。 単純な認証の使用時には、次の設定例のようにクレデンシャルの暗号化に SSL を使用できます。

```
<UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
<UseSSL>1</UseSSL>
<UseSecureConnection>0</UseSecureConnection>
<ConnectionUsername>username</ConnectionUsername>
<ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
```

この設定は、クライアントに対して次を指定します。

- Microsoft Windows クレデンシャルを使用しない。
- SSL を使用する。
- 単純な認証を使用する。
- カスタム クレデンシャルを使用する。

このため、クライアントは、クライアントの設定でクレデンシャルの暗号化に SSL を使用します。

SSL を使用した単純な認証：モバイル クライアント向け

BDIEnableTLS パラメータを使用して、ディレクトリ サーバ接続で SSL を有効にします。 単純な認証の使用時には、次の設定例のようにクレデンシャルの暗号化に SSL を使用できます。

```
<BDIEnableTLS>True</BDIEnableTLS>
<BDIConnectionUsername>username</BDIConnectionUsername>
<BDIConnectionPassword>password</BDIConnectionPassword>
<BDIServerPort1>636/3269</BDIServerPort1>
```

この設定は、クライアントに対して次を指定します。

- SSL を使用する。
- 単純な認証を使用する。
- カスタム クレデンシャルを使用する。
- TLS にポート 636/3269 を使用する。

このため、クライアントは、クライアントの設定でクレデンシャルの暗号化に SSL を使用します。

OpenLDAP の統合

匿名バインドまたは認証済みバインドを使用して、OpenLDAP と統合できます。

Cisco Jabber for Windows 用の匿名バインド

匿名バインドを使用して OpenLDAP と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI

パラメータ	値
ConnectionType	1
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
UseWindowsCredentials	0
UseSecureConnection	1
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート
UserAccountName	UID または CN などの固有識別子
BaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。
PredictiveSearchFilter	UID または他の検索フィルタ

設定例を次に示します。

```
<Directory>
 <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
 <ConnectionType>1</ConnectionType>
 <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
 <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
 <UseSecureConnection>1</UseSecureConnection>
 <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
 <UserAccountName>uid</UserAccountName>
  <BaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BaseFilter>
 <PredictiveSearchFilter>uid</PredictiveSearchFilter>
</Directory>
```

モバイル クライアントと *Cisco Jabber for Mac* 用の匿名バインド

匿名バインドを使用して OpenLDAP と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	BDI
BDILDAPServerType	OpenLDAP
BDIPrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
BDIEnableTLS	True
BDISearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート

パラメータ	値
BDIServerPort1	プライマリ ディレクトリ サーバのポート
BDIUserAccountName	uid または cn などの固有識別子
BDIBaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。
（オプション）BDIPredictiveSearchFilter	uid または他の検索フィルタ

設定例を次に示します。

```
<Directory>
 <DirectoryServerType>BDI</DirectoryServerType>
 <BDILDAPServerType>OpenLDAP</BDILDAPServerType>
 <BDIPrimaryServerName>11.22.33.456</BDIPrimaryServerName>
 <BDIEnableTLS>True</BDIEnableTLS>
 <BDISearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</BDISearchBase1>
 <BDIServerPort1>636/3269</BDIServerPort1>
 <BDIUserAccountName>uid</BDIUserAccountName>
 <BDIBaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BDIBaseFilter>
 <BDIPredictiveSearchFilter>uid</BDIPredictiveSearchFilter>
</Directory>
```

Cisco Jabber for Windows 用の認証済みバインド

認証済みバインドを使用して、OpenLDAP と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI
ConnectionType	1
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
UserWindowsCredentials	0
UseSecureConnection	0
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート
UserAccountName	UID または CN などの固有識別子
BaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。
PredictiveSearchFilter	UID または他の検索フィルタ
ConnectionUsername	ユーザ名

パラメータ	値
ConnectionPassword	パスワード

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <ConnectionType>1</ConnectionType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <UserWindowsCredentials>0</UserWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>0</UseSecureConnection>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
  <UserAccountName>uid</UserAccountName>
  <BaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BaseFilter>
  <PredictiveSearchFilter>uid</PredictiveSearchFilter>
  <ConnectionUsername>cn=lds-read-only-user,dc=cisco,dc=com</ConnectionUsername>
  <ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
</Directory>
```

モバイル クライアントと *Cisco Jabber for Mac* 用の認証済みバインド

認証済みバインドを使用して、OpenLDAP と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	BDI
BDILDAPServerType	OpenLDAP
BDIPrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
BDIEnableTLS	False
BDISearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート
BDIServerPort1	プライマリ ディレクトリ サーバのポート
BDIUserAccountName	UID または CN などの固有識別子
BDIBaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。
BDIPredictiveSearchFilter	（オプション）UID またはその他の検索フィルタ
BDIConnectionUsername	ユーザ名
BDIConnectionPassword	パスワード

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>BDI</DirectoryServerType>
  <BDILDAPServerType>OpenLDAP</BDILDAPServerType>
  <BDIPrimaryServerName>11.22.33.456</BDIPrimaryServerName>
  <BDIEnableTLS>False</BDIEnableTLS>
  <BDISearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</BDISearchBase1>
  <BDIServerPort1>389/3268</BDIServerPort1>
  <BDIUserAccountName>uid</BDIUserAccountName>
  <BDIBaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BDIBaseFilter>
  <BDIPredictiveSearchFilter>uid</BDIPredictiveSearchFilter>
  <BDIConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</BDIConnectionUsername>
  <BDIConnectionPassword>password</BDIConnectionPassword>
</Directory>
```

AD LDS の統合

特定の設定を使用した AD LDS または ADAM と統合できます。

Cisco Jabber for Windows 用の匿名バインド

匿名バインドを使用して AD LDS または ADAM と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
ServerPort1	ポート番号
UseWindowsCredentials	0
UseSecureConnection	1
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <ServerPort1>50000</ServerPort1>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>1</UseSecureConnection>
  <SearchBase1>dc=adam,dc=test</SearchBase1>
</Directory>
```

モバイル クライアントと *Cisco Jabber for Mac* 用の匿名バインド

匿名バインドを使用して AD LDS または ADAM と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
BDIPrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
BDIServerPort1	ポート番号
BDISearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <BDIPrimaryServerName>11.22.33.456</BDIPrimaryServerName>
  <BDIServerPort1>50000</BDIServerPort1>
  <BDISearchBase1>dc=adam,dc=test</BDISearchBase1>
</Directory>
```

Windows のプリンシパル ユーザ認証

Microsoft Windows プリンシパル ユーザによる認証を使用して AD LDS または ADAM と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
ServerPort1	ポート番号
UseWindowsCredentials	0
UseSecureConnection	1
ConnectionUsername	ユーザ名
ConnectionPassword	パスワード
UserAccountName	UID または CN などの固有識別子
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート

設定例を次に示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <ServerPort1>50000</ServerPort1>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
```

```
  <UseSecureConnection>1</UseSecureConnection>
  <ConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</ConnectionUsername>
  <ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
  <UserAccountName>cn</UserAccountName>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
</Directory>
```

Cisco Jabber for Windows 用の *AD LDS* プリンシパル ユーザ認証

AD LDS プリンシパル ユーザによる認証を使用した AD LDS または ADAM と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
DirectoryServerType	EDI
PrimaryServer	IP アドレス ホストネーム
ServerPort1	ポート番号
UseWindowsCredentials	0
UseSecureConnection	0
ConnectionUsername	[ユーザ名（Username）]
ConnectionPassword	[パスワード（Password）]
UserAccountName	UID または CN などの固有識別子
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート

設定例を次に示します。

```
<Directory>
<DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
<PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <ServerPort1>50000</ServerPort1>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>0</UseSecureConnection>
  <ConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</ConnectionUsername>
  <ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
  <UserAccountName>cn</UserAccountName>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
</Directory>
```

モバイル クライアントと *Cisco Jabber for Mac* 用の *AD LDS* プリンシパル ユーザ認証

AD LDS プリンシパル ユーザによる認証を使用した AD LDS または ADAM と統合するには、次のパラメータを設定します。

パラメータ	値
BDIPrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム
BDIServerPort1	ポート番号
BDIConnectionUsername	[ユーザ名（Username）]
BDIConnectionPassword	[パスワード（Password）]
BDIUserAccountName	uid または cn などの固有識別子
BDISearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート

設定例を次に示します。

```
<Directory>>
  <BDIPrimaryServerName>11.22.33.456</BDIPrimaryServerName>
  <BDIServerPort1>50000</BDIServerPort1>
  <BDIConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</BDIConnectionUsername>
  <BDIConnectionPassword>password</BDIConnectionPassword>
  <BDIUserAccountName>cn</BDIUserAccountName>
  <BDISearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</BDISearchBase1>
</Directory>
```